



『であい、ふれあい、そして未来へ』～自分を発揮し 求め続ける白川っ子の育成～

10月に入って多くの台風が日本に接近(上陸)して甚大な被害を与えています。近年の台風は中心から遠く離れた場所(特に中心より右側)でも大雨や強風をもたらします。四国沖で温低気圧に変わりましたが台風20号(ノグリー)に続き、今週末も台風21号(ブアローイ)の日本への接近が予報されています。季節の変わり目で天候が安定しない日が続くこともありますので、ご家庭においても十分注意してください。

\$ 月曜日は秋そばの実収穫 \$ ←10月28日(月) 予備日:29日(火)

8月18日(日)に種まきをしたそばの刈り取りを28日(月)予備日29日(火)に行います。麺類のなかまでよく知られているのはそば、うどん、ラーメン、パスタですが、今日はそばのルーツについて考えてみたいと思います。

日本のそばは、元をたどれば大陸伝来の食べ物です。植物のソバの原産地は、DNA分析などから現在では中国雲南省からヒマラヤあたりにかけてといわれています。

しかし、日本でソバの栽培が始まった時期はかなり古くまでさかのぼれます。日本史の中でも最も古い時代区分の縄文時代にたどり着くともいわれています。高知県内で9000年以上前の遺跡からソバの花粉が見つかり、当時からソバが栽培されていたと考えられています。また、さいたま市岩槻区でも3000年前の遺跡からソバの種子が見つかっています。

「蕎麦」が初めて、歴史的文献に上ったのは、797年に完成した史書『続日本紀』において、奈良時代前期の女帝だった元正天皇(680~748)が出した詔の中に、下記のような「蕎麦」の記述があります。

ソバの実。ソバはタデ科の1年生植物。実の殻を除き、実の中に含まれている粉からそばを作る。種まきから収穫までは2~3カ月と短く、荒涼とした土地でもよく育つ。

「今年の夏は雨がなく、田からとれるものがみのらず、よろしく天下の国司をして、百姓(おおみたから)を勸課し、晩禾(ばんか)、蕎麦及び小麦を植えしめ、たくわえおき、もって救荒に備えしむべし」

日照り続きで稲の収穫が見込めない中、普通より遅く実る晩禾とよばれる稲や小麦とともに、栽培が推奨されたのが「蕎麦」でした。ソバは、日照りや冷涼な気候にも強く、また栽培する土地(現在は、酸性雨の影響等で土壌改良しないと難しいですが)もさほど選ばないため、凶作の時も収穫が見込める救荒作物として位置づけられました。

\$ 給食試食会&教育懇談会宜しく申し上げます \$ ←10月30日(水)

お忙しい中ですが、少しの時間でもご参加いただけるとありがたいです。おおよその日程は下記のようになりますので、ご確認ください。PTA役員の方には準備等にご協力いただきます。宜しくお願いします。

12:00~13:00 給食試食会(準備、片付けを含む)※自由参加

- 配膳をしていただきますので、保護者の方もエプロン・マスクの準備をお願いします
- 体育館入口で、給食代270円を徴収させていただきますので、できるだけお釣りのないようにご準備ください。

13:20~15:40 白川小学校教育懇談会

- 開会行事
- 学校給食・食育について 亀山市立井田川小学校 栄養教諭 後藤 三枝子さん
- 講演会 三重県立看護大学 小児看護学 宮崎 つた子さん
演題「子どもの成長発達と毎日の生活習慣」
- 分散会 ~子どもたちに育てておきたいこと~
- 閉会行事



§ 3、4年生学習への取り組み§

□お年寄り訪問←10月21日(月)

10月21日(月)3・4限に本年度2回目の3・4年生による地域のおじいちゃん・おばあちゃん訪問交流を地域の福祉委員さん・民生委員さんとともに行いました。小川地区と白木地区に分かれて、自分の住んでいる地区を中心に訪問して、メッセージカードを届けました。訪問したお宅のおじいちゃん・おばあちゃんには喜んでいただきました。学校運営協議会事務局の明石さんを中心に、まちづくり協議会・福祉委員さん・民生委員さんにお世話になりました。ありがとうございました。



□市消防署&警察署見学←10月25日(金)

社会科の学習の一環として、市消防署・警察署へ校外学習に行ってきました。先月27日(金)は地区の消防団の方に来ていただいて、消防団の役割や意義等を教えていただきました。今回は、亀山市全体としてどのような取り組みを行っているのかを実際に訪問して聞くことで、この学習をより確かなものにしてきました。



市消防署



警察署

